

# 第5章 歴史と文化を未来へつなぐ、心豊かな人を育むまちづくり

## 1 地域への愛着と誇りを育む教育

### ◆5-1-1 学校教育

#### 【第1次総合計画での主な取組】

- 子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切にしたい本市らしい総合的な学習を推進しました。
- 学校、家庭、地域、産業界、行政が協働してキャリア教育の取組を推進しました。
- 小・中学校でボランティアによる学習支援事業に取り組みました。
- 読み書きにつまずきのある児童の早期発見・支援事業に取り組みました。
- 小1プロブレム、中1ギャップの解消のため幼保小・小中連携を推進しました。
- 豊かな自然と暮らしの循環を実感しながら学ぶ伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」に、保育園、全小中学校が取り組みました。
- 小中学校の非構造部材耐震化工事やトイレの改修など、児童・生徒の安全確保と地域防災拠点としての施設整備に取り組みました。
- 「学校給食施設整備計画」を策定し、施設整備を計画的に進めました。

#### 【施策分野における現状と課題】

- 児童生徒の豊かな感性を育み、人格を形成していくことが求められているため、体験的・探求的な活動を重視した総合的な学習や読書活動などを積極的に推進していく必要があります。
- 子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していくための力を育むため、学校、家庭、地域、産業界、行政の協働により、子どもたちの発達の段階にふさわしいキャリア教育を更に充実させ、推進していくことが求められています。
- 児童生徒の学力向上に向けて、自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図り、一人ひとりの児童生徒の実態に応じたきめ細かな学習指導をしていく必要があります。
- 児童生徒が情報モラルを身につけ、コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報伝達手段を活用できるようにするため、機器の整備を進めながら、情報教育に関する学習活動を充実するとともに、新学習指導要領に対応する教材備品を整備していく必要があります。
- 就学前教育と小学校とのギャップによる「小1プロブレム」や中学校生活になじみず不登校となる「中1ギャップ」の問題を解消するために、幼保小中の連携による指導の充実が求められています。
- 外国籍や多様な障害を持つ児童生徒に対する支援が必要となっています。また、人権・国際理解に向けた教育を進めていく必要があります。
- 子どもたちの豊かな育ちのため、経済的に困窮している家庭への支援が必要となっています。
- 生活リズムの乱れが見られる子どもや、一人で食事をとる子どもが増えています。児童生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせ、家族とともに食卓を囲む時間を過ごし、心と体を健やかに育成することが求められています。
- 学校給食は、児童生徒にバランスのとれた食事を提供するとともに、生涯にわたる望ましい食習慣の形成や地産地消の推進など、「食育」として重要な役割を果たしているため、さらなる充実が求められています。
- 校舎や体育館の構造部材の耐震化は完了しましたが、非構造部材の耐震化、給食施設の整備が急務となっています。
- 少子化により児童生徒数が減少している学校がある一方で、宅地化の進行などにより児童生徒数が増加している学校があるため、教室不足の解消や通学区の見直しを慎重に検討していく必要があります。

○通学路での不審者による声かけなど、児童生徒を対象とした事案が頻発しているため、児童生徒の登下校時の安全対策を一層充実していく必要があります。

○長野県の提唱する「信州型コミュニティ・スクール創造事業」では、継続的に活動可能な運営委員会を組織化することが求められています。

## 【第2次総合計画における施策と展開方針】

### 1 学校教育の充実

○本市の教育理念「はじめに子どもありき」を具現化するため、全ての教育活動を「子どもに発し、子どもに還る」ものとするよう努めます。

○子どもたちの「生きる力」や「自分の学ぶ力に対する自信」を育み、豊かな人間性を身につけられるようにするため、本市の自然や文化、伝統、産業などにかかわる体験的な学習の取組である「総合的な学習の時間」を推進します。

○信州型コミュニティ・スクール事業に取り組み、地域に開かれた学校づくりを推進します。

○職場体験学習の事前・事後学習等を通じて、生徒一人ひとりに目的意識を持たせるための支援を行うとともに、地域で子どもを育てるといふ「伊那市キャリア教育憲章」のビジョンを関係者間で共有し、企業・各種団体が設けたブースを中学生が巡る「キャリアフェス」、小学生の職業選択の意識付けに向けた企画など、各種キャリア教育の取組を推進します。

○授業をもっと良くする3観点(ねらい、めりはり、見とどけ)を特に意識した授業改善に取り組むとともに、学力検査などの分析を児童生徒一人ひとりの学習指導に生かしながら、体験的な学習やグループ学習を積極的に取り入れていくことにより、児童生徒の自発的な学習を促進します。

○自ら学ぶ意欲や心豊かな人間性を育むため、学校図書館を充実するとともに、ボランティアの協力による読書活動等を推進します。

○グローバルな見方、考え方を育むため、ALTの配置やICT機器を活用した外国語指導の充実を図ります。

○学校におけるICT環境の整備により、情報機器を正しく利用するための情報モラル教育を進めるとともに、プログラミング教育など、新学習指導要領に沿った基本的な情報活用能力の育成にむけた取組を推進します。

○児童生徒が離れた場所で優れた授業を共有できるICT機器を活用した遠隔合同授業の実施を推進します。また、遠隔合同授業を「中1ギャップ」の解消や教師の授業改善に役立てる機会として活用を図ります。

○ICT機器の活用や新しい教科等の指導などに関する教員研修を充実させ、教員の資質や指導力の向上に努めます。

### 2 きめ細かな学びの支援

○保育士と教職員による保育・授業交換や同じ中学校区の児童の相互交流により、幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携を図り、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」の解消を図ります。

○障害を持つ児童生徒を支援するため、特別支援教育支援員を配置します。また、外国籍の児童生徒の就学を支援するため、外国語児童生徒支援相談員を配置します。

○低所得家庭の児童生徒の就学援助や、遠距離通学の児童生徒の通学支援を行います。

### 3 安心安全な給食と食育の推進

○地元の農産物等を利用することにより、地産地消を進めながら、学校給食の充実を図るとともに、伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」を推進し、児童生徒が食物生産に関わる循環型社会のあり方を体験できるよう努めます。

○食物アレルギー対応食が必要な児童生徒に対しては、安全性を最優先した給食提供を行い、全ての児童生徒にとって学校給食が安全かつ楽しい時間となるよう、学校、教育委員会、関係機関が連携して、食物アレルギー事故の発生防止に取り組めます。



- 「伊那市学校給食施設整備計画」に基づき、安心・安全な給食が提供できる給食施設の整備を進め、学校給食の効率的な業務運営を推進します。

#### 4 学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置

- 小中学校の安全性や快適性の向上を図るため、「非構造部材耐震化計画」に基づき、体育館の非構造部材の耐震化・校舎の大規模改造工事等建物の長寿命化工事を実施するとともに、暑さ対策に取り組めます。
- 学校の適正配置に向け、通学区の弾力化などについて調査・研究を行います。
- 小規模特認校制度導入校の学校運営、児童数確保、教育課程の編成などについて、地元との協議や研究を進め、さらなる充実を図ります。

#### 5 学校・家庭・地域の連携強化

- 児童生徒の規則正しい生活習慣の確立に向け、学校と家庭が連携して「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」「ノーテレビ・ノーゲームデー」などの定着を図るとともに、家庭学習、ドリル学習等の充実を図ります。
- 家庭での正しい情報機器の利用について、保護者を含めた啓発に努め、相談体制の充実を図ります。
- 子ども安全見守り隊などの活動を支援するとともに、危険箇所の点検などを実施し、地域やPTAと連携しながら、安全な通学路の整備を進めます。
- 「総合的な学習の時間」や「暮らしのなかの食」、キャリア教育など、多くの機会を通じて、これまで築いてきた地域との関係を更に発展させていきます。
- 教職員の長時間勤務の解消に向け、長野県教育委員会など関係機関と協力し、分業化、協業化、効率化を進める「働き方改革」を推進します。
- 地域の教育力が学校の教育活動の充実につながるよう、地域との連携による「信州型コミュニティスクール創造事業」に取り組み、地域に開かれた学校づくりを進めます。

#### 【まちづくり指標(KPI)】

まちづくり指標	現状値		目標値		備考 (数値根拠)
	数値	年度	数値	年度	
コミュニティスクール ボランティア登録数	1,287名	2017 (H29)	1,500名	2023	地域で支える 学校サポート活動 (県調査)
体育館非構造部材 耐震化工事実施済学校数	12校	2017 (H29)	21校	2023	耐震化 整備状況



動物の飼育をはじめとした特色ある総合学習



キャリアフェスの様子

## ◆5-1-2 教育連携

### 【第1次総合計画での主な取組】

- 高遠高等学校の「高遠学園構想」をはじめ、地域の高等学校の特色ある学校運営を支援しました。
- 私学の振興に向け、市内の私立高等学校の運営を支援しました。
- 信州大学農学部、東京藝術大学及び長野県南信工科短期大学校との連携・交流を推進しました。

### 【施策分野における現状と課題】

- 長野県による「学びの改革」により、高等学校再編の議論が進められていますが、先進的で時代の変化を創造する魅力的な高等教育や地理的な理由によって生徒が不利にならないような配慮が求められています。
- 少子化に伴い、生徒数が減少していく中で、生徒数を安定的に確保することにより、私立高等学校が健全に運営されていくことが求められています。
- 信州大学との地域連携や高遠町出身の伊澤修二が初代校長を務めた縁で交流が続く東京藝術大学との連携を通じ、専門性のある教育を受ける環境を創出するとともに、信州大学や長野県南信工科短期大学校卒業生の市内企業への就職、市内での就農につながる取組が求められています。

### 【第2次総合計画における施策と展開方針】

#### 1 高等学校との連携

- 地域の高等学校と連携を図り、社会変化に対応した教育内容の充実と魅力ある高等教育について関係機関への働きかけを行います。また、引き続き遠距離通学者への支援に取り組みます。
- 高遠高等学校の「高遠学園構想」など、地域に根差した特色ある学校運営の取組を支援するとともに、地域や小中学校との連携を促進します。
- 地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を考慮し、私学の振興支援に努めます。
- 自分の育った地域を愛し、誇りに思う気持ちを育み、生き方を深く考えられるよう、上伊那地域の高等学校や大学等と連携したキャリア教育に取り組みます。

#### 2 大学との連携

- 児童生徒の感性を育み、学習意欲を向上させるために、信州大学や東京藝術大学、長野県南信工科短期大学校等との連携・交流を更に推進します。
- 東京藝術大学との連携では、市内の古民家の再生活動等を通じて、学生による芸術・文化活動の拠点づくりに取り組みます。
- 関西大学の学生による東春近老松場古墳群の調査など、大学との連携・交流事業に取り組みます。

### 【まちづくり指標(KPI)】

まちづくり指標	現状値		目標値		備考 (数値根拠)
	数値	年度	数値	年度	
地域の高等学校や大学などと連携して学習を実施している小中学校	13校	2017 (H29)	21校	2023	



### ◆5-1-3 心の教育

#### 【第1次総合計画での主な取組】

- 子ども相談室及び関係機関と連携し、不登校児童生徒の早期発見、対応、支援に取り組みました。
- 「いじめ防止基本方針」を策定し、防止に向けた組織体制を明確化するとともに、小中学校では、市の基本方針を踏まえた学校独自の「いじめ防止計画」を策定し、学校からいじめをなくす取組を推進しました。
- 子どもと親の相談員や、スクールカウンセラーを配置し、適時の相談支援に努めるとともに、関係機関の研修や個別ケース支援会議を開催するなど、虐待通告後の子どもの安全を守るための支援を強化しました。

#### 【施策分野における現状と課題】

- 子ども相談室への相談件数は年々増加し、内容も多様化するとともに、緊急性が増す傾向にあります。
- 家庭における子どもの成育環境など、児童生徒の背景にあるものを理解した上で、一人ひとりの状況に応じてきめ細かな対応をしていくことが求められています。
- いじめ問題の解消に向けた児童生徒に対する心の教育を充実するとともに、問題兆候の早期発見や迅速な対応が求められています。
- 虐待を防止するため、学校や家庭、地域などの関係者により、危機意識の共有を図る必要があります。
- 不登校やいじめ、虐待、引きこもり、非行などを早期に発見し、健やかな成長と自立に向けた支援を行うためには、教育・保健・医療・福祉・雇用などの関係機関が一体となった、幅広い見識や専門性の高い対応が求められています。

#### 【第2次総合計画における施策と展開方針】

##### 1 不登校対策の推進

- 不登校児童生徒を支援するため、子ども相談室や中間教室を中心に、学校・家庭・地域・関係機関が連携した相談・支援体制の一層の充実を図ります。

##### 2 いじめ防止対策の推進

- 学校における人権教育や情報モラル教育等を充実し、アンケートの実施等により、いじめの未然防止を図るとともに、子どもと親の相談員や、スクールカウンセラーの配置などにより、いじめの早期発見、早期解消を図ります。

##### 3 虐待防止対策の推進

- 児童虐待防止マニュアルに基づき、保護者をはじめとする関係者の意識向上を図るとともに、子どもの安全と生活を守るため、支援体制の充実を図ります。
- 様々な悩みを抱える児童生徒に対してきめ細やかな支援を行うため、関係機関の連携強化を図るとともに、関係者を対象にした研究協議等を行います。

## ◆5-1-4 青少年健全育成・家庭教育

### 【第1次総合計画での主な取組】

- 「子どもが集う公民館」を目指し、通学合宿、夏休みおいで塾のほか、将棋、いきもの探検、ものづくり、自然観察会など、各館の特色を生かした公民館講座により、子どもたちの居場所づくりや活動の支援に取り組みました。
- 放課後に保護者がいない家庭の児童を安全に保護し、健全育成を図るため、市内全小学校区に学童クラブを設置しました。
- 街頭補導を定期的実施し、街中での声かけや見守り活動に取り組みました。
- 小中学校区ごとに「よりよい教育環境推進連絡会」を開催し、地域と学校との連携について意見交換を行いました。
- 公民館を会場として、未就園児と母親を対象にした子育て教室を開催したほか、伊那市社会福祉協議会、図書館ボランティアと連携して「キッズ王国」を開催しました。

### 【施策分野における現状と課題】

- 子どもたちの居場所づくりには、活動を支えるスタッフが欠かせないことから、ボランティアスタッフの増加を図る必要があります。
- 学童クラブの利用者が増加しているため、利用者数に見合った施設へ拡張整備することや、子どもたちの安心安全を確保するため、老朽施設を改修することが必要となっています。
- 発達障害等を抱える子どもの受入に対応するため、スタッフの確保や技術的な支援体制の充実が求められています。
- 子どもや若者を犯罪や有害環境から守るため、青少年健全育成強調月間における環境チェック活動、街頭啓発活動、有害自販機撤去活動への協力依頼など、学校と地域の連携により、地域全体で青少年の健全育成を支えていくことが重要です。
- 核家族化の進行や、一人親世帯の増加により、家庭における養育環境の質的低下が懸念されています。子どもや若者を孤立させず、地域・学校・家庭で問題意識を共有するとともに、関係機関と連携して課題解決に努める必要があります。

### 【第2次総合計画における施策と展開方針】

#### 1 子どもの居場所と安心安全の確保

- 長野県将来世代応援県民会議が進める青少年サポーター制度への支援者登録の推進により、ボランティアスタッフの増加を図ります。
- 利用者ニーズや安心安全を踏まえた学童クラブの施設整備に努め、共働き世帯を支援するとともに、地域において子どもたちが伸び伸びと成長できるような環境づくりを進めます。
- 障害等を抱える子どもなどの受入に対応するため、スタッフの確保や支援体制の強化に努めます。
- SNSを介した人間関係のトラブル、いじめへの発展、子どもの性被害など、情報機器使用に伴うリスクなど、子どもが抱える様々な問題に対応するため、学校や関係機関と連携してネットリテラシー教育の充実に取り組みます。
- SNSを活用した相談体制の構築など、児童生徒の相談に係る多様な選択肢を用意することにより、相談体制の充実を図ります。
- 登下校の子どもの見守り活動を通じて、子どもたちを犯罪や孤立感から守ります。



## 2 地域・関係機関との連携による 家庭教育の充実

○各育成団体と協力して青少年育成運動を展開し、  
地域全体で青少年の健全育成を推進します。

○家庭教育の充実について、関係機関と連携を図り  
ながら働きかけを行うとともに、学童クラブでも日常  
生活で必要となる基本的な生活習慣を身に着ける  
ための支援や指導に取り組みます。

### 【まちづくり指標(KPI)】

まちづくり指標	現状値		目標値		備考 (数値根拠)
	数値	年度	数値	年度	
公民館子ども対象講座の 参加者数	4,552人	2016 (H28)	5,400人	2023	年間延べ人数
学童クラブ定員数 (受入れ整備目標)	775人	2016 (H28)	850人	2023	



東春近小学童クラブ

## 2 生涯にわたる学びの支援とスポーツの振興

### ◆5-2-1 生涯学習

#### 【第1次総合計画での主な取組】

##### ◆生涯学習・社会教育◆

○「伊那市生涯学習基本構想」に基づき、各種事業を推進するとともに、国県等の教育機関と連携して、生涯学習・社会教育の振興を図りました。

##### ◆公民館◆

○地域交流や生涯学習の拠点となる、西箕輪公民館、伊那公民館、手良公民館の整備を行いました。  
○地域の特色を生かした講座やライフスタイルの多様化に対応した講座など、各公民館において魅力ある講座の開催に努めました。

##### ◆図書館◆

○公民館の整備に伴う図書室の新設・改修に合わせ、図書資料の充実に努めました。  
○図書館利用者の利便性の向上や、蔵書管理の効率化を図るため、上伊那郡内7市町村共同で図書館システムの更新を行いました。また、信州大学農学部図書館と資料貸借及びシステム連携を行いました。  
○本との出会いの場を提供するため、各図書館及び図書室、福祉施設等で絵本や紙芝居などの読みきかせを行いました。  
○赤ちゃんが伸び伸びと健やかに育つようにとの願いを込め、6カ月健診時に木の贈り物および絵本のプレゼントを行う「ウッドスタート・ブックスタート事業」に取り組みました。

##### ◆生涯学習センター◆

○生涯学習の拠点として、市民一人ひとりが自己実現できるよう、市民大学のほか各種自主講座を開催するとともに、様々な活動の場として、会議室、ギャラリー、ホールなど施設の貸出を行いました。  
○多様な学習ニーズに対応するため、NPO等と連携し、各種講座や音楽イベント、伝統文化公演等を開催するとともに、市民芸術文化祭をはじめとした学習発表会を行いました。



生涯学習自主講座



絵本の読みきかせ





## 【施策分野における現状と課題】

### ◆生涯学習・社会教育◆

- 生涯学習基本構想に基づく具体的な目標設定により、誰もが生涯学習に取り組むことのできる環境を構築する必要があります。
- 地域の特色や地域課題に対応したメニューに取り組むためには、各教育機関と調整を行い、連携を強化していく必要があります。
- 様々な社会教育施設の状況を考慮し、それぞれについて適切な管理運営体制を検討していく必要があります。

### ◆公民館◆

- 老朽化した公民館の大規模改修等、施設の適切な維持管理について、検討していく必要があります。
- 通学合宿、夏休みおいで塾などのボランティアスタッフが年々少なくなっているため、支援体制の見直しについて、検討していく必要があります。
- 講座参加者による地域貢献に向けた体制について、検討していく必要があります。
- 核家族化の進行やストレス社会の影響から、孤立しがちで身近な相談先がない親が増加傾向にあるため、身近なところで気軽に参加できる公民館の子育て講座の充実や支援体制の強化が求められています。

### ◆図書館◆

- 地域の「知の拠点・情報拠点」として、利用者の要望や地域の実情を踏まえ、多様な情報の整備や学習機会の提供を行う必要があります。
- 子どもの読書離れが深刻化しているため、図書館、学校、保育園などが連携し、子どもの読書活動を推進する必要があります。

### ◆生涯学習センター◆

- 生涯学習の拠点施設として、より効率的な運営を図るため、指定管理者制度等業務委託による運営形態について検討していく必要があります。また、施設の長寿命化計画を策定し、施設の改修や更新を計画的に進めていく必要があります。
- 多様な学習ニーズへの対応や文化・芸術の振興を図るため、NPOとの連携を深めていく必要があります。



公民館講座(キッズ王国)

## 【第2次総合計画における施策と展開方針】

### 1 生涯学習・社会教育の推進

- 「伊那市生涯学習基本構想」に基づく計画的な事業実施により、いつでも、どこでも、誰もが生涯学習に取り組むことのできる環境づくりに努めます。
- 市内小中学校、高等学校との連携により、地域の実情に合ったメニューや、地域の特色を学習する機会を提供していきます。
- 信州大学、東京藝術大学、国立信州高遠青少年自然の家、長野県伊那文化会館など、大学や国・県の教育機関とのネットワークを構築し、生涯学習の振興を図ります。
- 各社会教育施設について、利用者や地域住民の意向を確認しながら、適切な管理・運営に努めます。
- 伊那市防災コミュニティセンターの平時の利活用を図るため、指定管理者による貸館業務を通じて、市民の生涯学習、文化活動の充実を図り、市民交流を促進します。

### 2 公民館活動の推進

- 地域文化や生涯学習の拠点として、公民館の適正な維持管理に努めるとともに、施設の長寿命化を図るため、老朽化した施設の改修等を行います。
- 公民館が教育機関連携の核となり、子どもたちの健やかな成長や地域全体の教育力向上に向けた取組を推進します。
- 通学合宿、夏休みおいで塾などにおけるボランティアスタッフ体制の充実を図るため、信州大学をはじめ、市内高等学校、中学校などへ支援体制の強化に向けた働きかけを行います。
- 市民大学、シニア大学などの受講者へ横のつながりを広げていくよう働きかけを行うとともに、地域貢献に向けた体制の強化に取り組みます。
- 伊那市創造館、高遠町歴史博物館、信州高遠美術館との連携により、専門性のある講座を取り入れるなど、多くの人が地域活動に関心を持てるような、魅力ある講座の企画に努めます。
- 乳幼児を育てる親の孤立を防ぐため、各館子育て講座を開催する中で、保健師や保育士との連携強化や支援体制の充実を図ります。

### 3 図書館の充実

- 地域の「知の拠点・情報拠点」として、図書や情報資料の充実・活用を図るとともに、上伊那地域の図書館との連携により、利用者の利便性向上に努めます。
- 読書への関心が更に高まるように、保育園、学校、公民館等と連携して子どもの読みきかせ活動等の充実を図ります。
- 本を通じて親子の触れ合いを深められる「ブックスタート事業」を推進します。

### 4 生涯学習センターの充実

- 施設の効率的な運営や活用の充実に向け、指定管理者制度等業務委託について検討を行います。
- 施設の長寿命化計画を策定し、計画的に設備の更新を行うなど、適正な維持管理に努めます。
- NPO等との連携により、多様な学習ニーズに対応するとともに、文化・芸術の振興や学びの支援に向け、事業の充実を図ります。



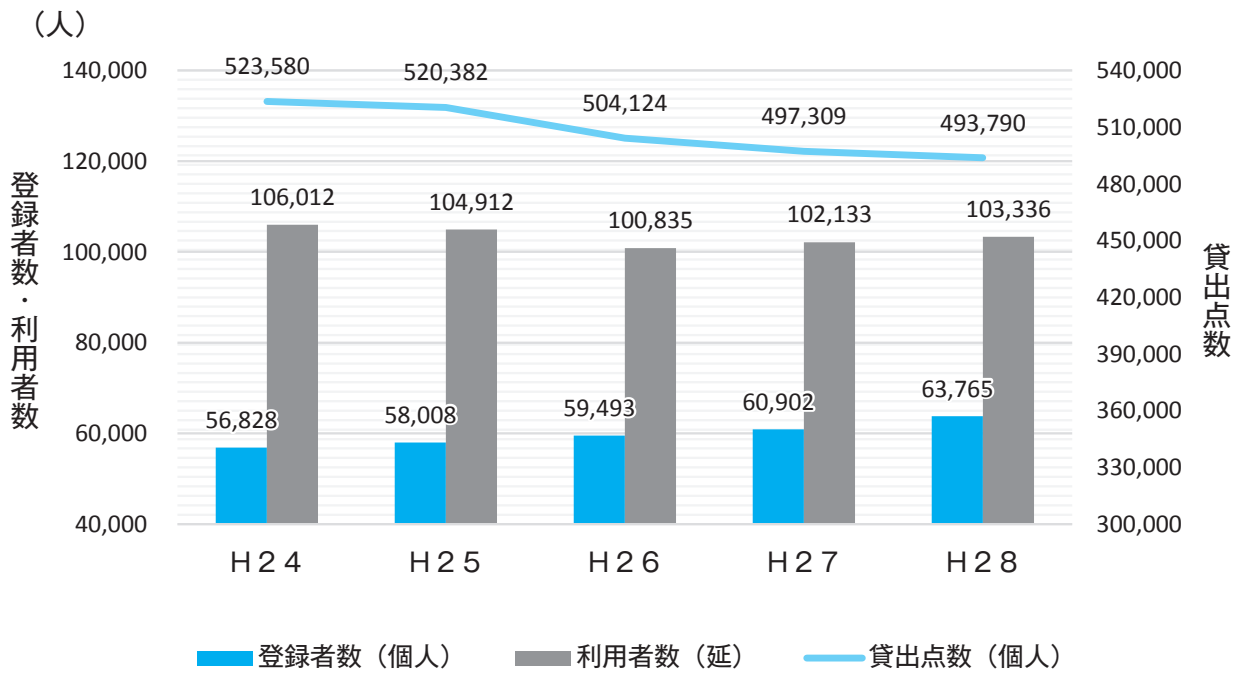
生涯学習センター(いなっせ)



### 【まちづくり指標 (KPI)】

まちづくり指標	現状値		目標値		備考 (数値根拠)
	数値	年度	数値	年度	
公民館利用者数	170,318人	2016 (H28)	179,000人	2023	年間利用者数
図書館利用者数	103,336人	2016 (H28)	108,500人	2023	年間利用者数
生涯学習センター利用者数	148,196人	2016 (H28)	148,500人	2023	年間利用者数

### 伊那市立図書館利用状況の推移



## ◆5-2-2 文化・芸術

### 【第1次総合計画での主な取組】

- 「伊澤修二記念音楽祭」など、地域に根ざした文化事業を実施しました。
- 長野県伊那文化会館との共催事業に取り組むとともに、利用促進のため、利用者への助成を行いました。
- 公民館分館ごとに調査グループを設置し、「古い地名調査」を実施しました。
- 国・県市指定文化財の公開や維持管理を行いました。
- 歴史的建造物の旧馬島家住宅、旧池上家住宅や学術的に貴重な史料を展示している伊那市民俗資料館では、「触れられる展示」を行いました。
- 文化庁の補助事業を活用し、体験学習講座への助成を行いました。
- 月見松遺跡など、埋蔵文化財(出土品、記録類)の再整理事業に取り組みました。
- 伊那市創造館や高遠町歴史博物館・信州高遠美術館では、施設の特徴を生かし、地域ゆかりの資料の収集・整理・保管を行い、地域の学習拠点として、学習室の開放、講演会・講座を開催しました。
- 文化芸術施設の効率的な運営や住民サービスの向上を図るため、指定管理者制度の導入検討を行いました。

### 【施策分野における現状と課題】

- 文化事業の参加者に偏りが見られるため、幅広い年代が参加できるような内容を検討する必要があります。
- 国・県など、関係機関との連携を進めるとともに、サークルなどの団体育成や、新たな文化の創造が求められています。
- 文化遺産には様々な種別がありますが、鑑定に必要な専門知識を有する人材の高齢化や減少が課題となっています。
- 指定文化財は件数も多く、広範囲に渡ることから、現状把握が難しい状況にあります。
- 歴史的建造物や学術的に貴重な資料は、保護とともにその有効利用が求められています。
- 指導者や構成員の高齢化により民俗芸能団体の構成員が減少しています。また、伝承する構成要素(踊り、音楽等)の記録化が課題となっています。
- 長野県伊那文化会館との事業連携を図り、施設利用を促進する必要があります。
- 多様な学習ニーズに対応するため、地域の学習拠点として、伊那市創造館、高遠町歴史博物館、信州高遠美術館、図書館などの施設を充実していく必要があります。
- 地域ゆかりの資料が散逸しないようにするためには、収集・整理・保管を行う学芸員の配置が必要ですが、専門職員の不足が課題となっています。
- 収集・整理された資料の増加により、保管場所の確保が課題となっている施設があります。また、今後行われる発掘調査により、出土品等の増加が見込まれるため、適正に保管する場所や方法を検討する必要があります。
- 信州伊那高遠の四季展に代わる事業として、地元作家の育成事業や東京藝術大学との連携事業を検討する必要があります。
- 老朽化が見られる施設の長寿命化を図り、適正に維持管理していく必要があります。



## 【第2次総合計画における施策と展開方針】

### 1 文化芸術の振興と地域文化の育成

- 知識や経験の豊富な事業者による施設運営など、事業の更なる見直しにより、文化事業の充実を図ります。
- 地域に根ざした「伊澤修二記念音楽祭」などの文化イベントについては、より多くの市民が参加できるように内容の見直しを行いながら、継続的に実施します。
- 東京藝術大学や長野県伊那文化会館との連携事業により、文化芸術の振興を図ります。
- 多様な文化芸術や伝統芸能などのサークル・保存団体の育成を推進するとともに、連携の促進や支援を通じて、地域文化の振興を図ります。

### 2 文化財の保存・継承・活用

- 文化遺産や歴史資料の調査・研究を進め、特に重要なものについては文化財指定を行い、保存に努めます。
- 合併前の市町村で発行された市町村史は編纂から数十年を経ており、市町村合併、社会情勢の変化、新たな調査結果などもあることから、「新」市誌の編纂に取り組みます。
- 指定文化財や歴史的建造物等を市民等の学習・研究及び地域の活性化に生かすため、「保存活用計画」を作成し、適切な保存管理と有効活用を図ります。
- 民俗文化を継承していくため、映像等の記録化に努めるとともに、地域における保全組織の安定した活動方法の検討を進めます。
- 報告書掲載遺物の整理など、考古資料の再整理作業を進め、適切な保管に努めるとともに、考古資料を活用した体験学習講座などを開催し、埋蔵文化財保護啓発の推進に努めます。

### 3 文化芸術施設の充実及び活用

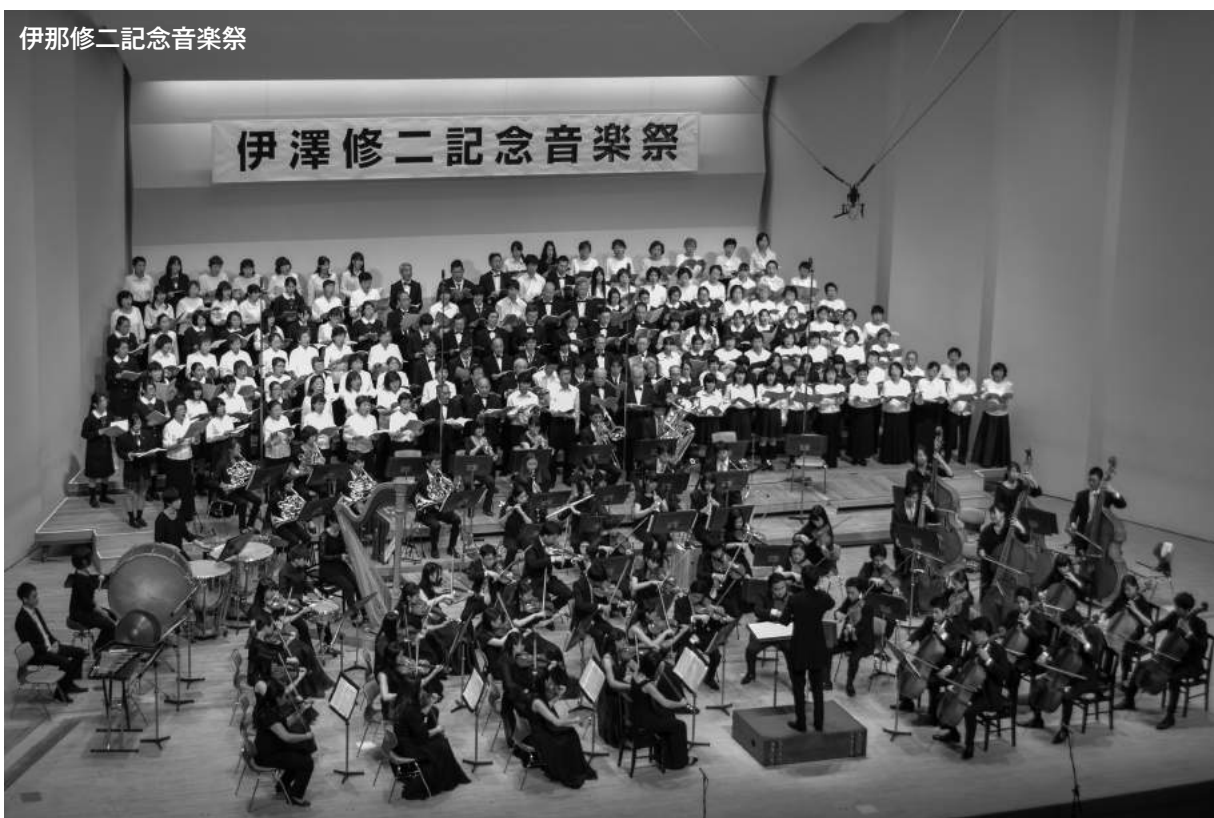
- 多様な学習ニーズに対応するため、地域の学習拠点として伊那市創造館、高遠町歴史博物館、信州高遠美術館、図書館などの施設の充実に努めます。
- 郷土学習や研究の拠点として、地域ゆかりの資料が散逸しないよう収集・保存を進めるとともに、各施設の特徴を生かした展示の充実や情報発信に努めます。
- 保有する貴重な資料や施設の一層の活用を図るため、専任の専門職員の配置に努めるとともに、職員の資質向上に取り組みます。
- 増加する資料や作品を適正に保管していくため、保管場所や保管方法について、検討を進めます。また、老朽化が見られる施設の大規模改修を進め、施設の長寿命化を図ります。



伊那市創造館

【まちづくり指標(KPI)】

まちづくり指標	現状値		目標値		備考 (数値根拠)
	数値	年度	数値	年度	
文化振興補助金の利用件数	20件	2016 (H28)	25件	2023	
高遠町歴史博物館 入館者数	14,951人	2016 (H28)	16,000人	2023	
伊那市創造館 入館者数	42,225人	2016 (H28)	45,000人	2023	
信州高遠美術館 入館者数	14,294人	2016 (H28)	16,000人	2023	
伊那市民俗資料館 入館者数	4,171人	2016 (H28)	4,500人	2023	





### ◆5-2-3 スポーツ

#### 【第1次総合計画での主な取組】

- 市民体育祭をはじめ、各種スポーツイベントや大会の開催を通じて、市民の健康の増進や体力の向上を図るとともに、明るく豊かな生活づくりに向けた生涯スポーツの普及・推進に取り組みました。
- 伊那市総合型地域スポーツクラブや伊那市体育協会など、各種スポーツ団体の活動支援に取り組みました。
- 地域の競技力の向上や活力ある地域社会の形成に向け、春の高校伊那駅伝、ソフトボール全国大会、大学ラグビー招待試合等のハイレベルな大会を開催しました。
- インターネットを利用したスポーツ施設の予約システムを構築し、施設利用者の利便性の向上を図りました。
- 既存スポーツ施設を効率的に利活用するとともに、将来にわたり適正に維持管理していくため、「伊那市体育施設整備計画」を策定しました。

#### 【施策分野における現状と課題】

- 気軽に取り組むことのできる比較的負担の少ないスポーツが人気となっている一方で、スポーツをする人とならない人の二極化による体力格差の進行が課題となっています。
- ライフスタイルの変化や地域コミュニティの希薄化に伴い、スポーツ団体の構成員数や、大会・各種イベント等への参加者数が減少しています。
- 年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じて参画することができる障害者スポーツ等の推進や、環境の整備が求められています。
- 2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会や2027年の国民体育大会の開催に向け、関係機関等と連携を図り、機運を醸成していく必要があります。
- スポーツを安全に、正しく、楽しく指導するとともに、本質的な楽しさや素晴らしさを伝えることができる指導者を確保することが求められています。また、指導者の育成やスキルアップを図るための取組が求められています。
- スポーツイベント等の開催には、大会を支えるスタッフやボランティアの存在が欠かせないため、多くの人員の確保が求められています。
- 全国大会や国際大会などで活躍できる人材を育成するため、競技環境の整備や指導体制の充実が求められています。
- 老朽化した施設の適正管理や市民ニーズの高いスポーツ施設を計画的に整備・改修していくことが求められています。
- 「駅伝のまち」「ソフトボールのまち」として、大会の継続的な開催が求められています。

## 【第2次総合計画における施策と展開方針】

### 1 スポーツ・レクリエーションの充実

- スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関する情報を収集・提供することにより、スポーツに対する意識の啓発に努めます。
- 市民の健康の増進や体力の向上を図るため、関係機関・部署と連携して、誰でも気軽にできる生涯スポーツの普及に取り組みます。
- 各種スポーツ団体の自主的な活動を支援することにより、地域のスポーツ活動を促進します。
- 年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じて参画することができる種目の紹介や参加しやすいイベント等の開催に取り組むとともに、環境整備に努めます。
- 東京オリンピック・パラリンピックの合宿招致により、開催に向けた機運の醸成を図るとともに、大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を促進します。また、2027年の国民体育大会の開催会場の招致に努め、選手の育成や市民の競技レベル向上の取組を通じて、スポーツの振興を図ります。

### 2 スポーツに関わる人材育成

- 子どもから高齢者まで気軽に楽しめる生涯スポーツ活動や、競技力の向上を目指す競技スポーツなど、多様なニーズに対応できる指導者の確保・育成に努めるとともに、スポーツ関係団体の活動を支援します。
- スポーツイベント等を通じて、大会を支えるスタッフとボランティアの育成を図り、市民の自発的な活動と地域の交流を促進します。

### 3 競技力の向上

- 競技力向上のため、スポーツ団体と連携してハイレベルな大会の誘致に努めます。
- スポーツ団体との連携により、指導者の資質向上や指導体制の充実を図るとともに、競技者を育てる環境づくりを推進します。

### 4 スポーツ施設の有効活用

- 「伊那市体育施設整備計画」に基づき、施設の改修や統廃合などを進め、既存スポーツ施設の効率的な利活用や適正管理に努めます。
- 市民ニーズの高いスポーツ施設を計画的に整備・改修していくことにより、利用者の利便性向上に努め、スポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。

### 5 「駅伝のまち」「ソフトボールのまち」の推進

- 活力ある地域づくりを推進するため、「春の高校伊那駅伝」を継続的に開催し、駅伝のまちとして積極的に情報を発信します。
- ソフトボールのまちとして、全国規模の大会を継続して開催するとともに、競技人口の拡大や競技力の向上に努めます。





### 【まちづくり指標 (KPI)】

まちづくり指標	現状値		目標値		備考 (数値根拠)
	数値	年度	数値	年度	
市民体育祭参加者	4,041人	2016 (H28)	4,647人	2023	
総合型地域スポーツクラブ 会員数	3,314人	2016 (H28)	3,811人	2023	
スポーツ少年団団員数	547人	2016 (H28)	601人	2023	
体育施設の稼働率	49.9%	2016 (H28)	59.9%	2023	

